

2022年7月24日
年間第17主日
菊地功大司教 メッセージ

ルカ福音は、「祈りを教えてください」と願う弟子たちに、イエスが、「父よ、御名が崇められますように」と始まる「主の祈り」を教えたことを記しています。

イエスが示すもっとも基本となる祈りは、「父よ」と始まります。イエスが指し示す御父のイメージは、例えば放蕩息子を迎え入れる父親に象徴されるような、神のいつくしみを具体化した存在です。わたしたちに語りかける御父は、わたしたちがその呼びかけに応えるのを待ち続け、わたしたちが語る言葉に耳を傾けてくださいます。

カテキズムは、主の祈りを、「全福音の要約、もっとも完全な祈り」とする教父たちの言葉を紹介し、「福音の本質的内容を祈りの形でまとめている」と指摘しています（カテキズム要約579）。

主の祈りは、わたしたちが神に従ってたどるべき道を明示する祈りです。先に呼びかけてくださった神に対するわたしたちの答えとして、わたしたち自身の生きる姿勢を明確にするこの祈りは重要であり、神はわたしたちの決意表明に耳を傾けてくださいます。

わたしたちの祈りに耳を傾けられる御父の姿勢は、創世記に記されたソドムの町に関するアブラハムと神のやりとりにもよく表れています。辛抱強く耳を傾けるのは、御父です。

御父が耳を傾けてくださる存在であるからこそ、イエスは弟子たちに、「求めなさい。探しなさい。門をたたきなさい」と諭します。与えられるものは「よいもの」です。「聖霊」です。邪悪な事柄を執拗に求めたからと言って、それは聞き入れられません。わたしたちが執拗に祈り求めるためには、まず、「父よ」と呼びかけるあの福音を凝縮した祈りが必要であり、その祈りのあとに続けて求めることができるのは、善であり、悪ではありません。神の御旨の実現であり、悪の支配ではありません。ゆるしであって、分断や分

裂ではありません。

教皇フランシスコは、昨年 2021 年から、7 月 26 日の聖ヨアキムとアンナの記念日に近い主日を、「祖父母と高齢者のための世界祈願日」と定められました。今年は 7 月 24 日がこの祈願日となります。今年の祈願日のために教皇様はメッセージを用意され、そのテーマを詩編 92 から取った、「白髪になってもなお実を結び」とされています。

長寿であることは、多くの国で祝福でしたが、日本のように少子高齢化が激しく進むと、そうとばかりも言われなくなります。教皇様はご自身の近頃の体調に触れながら、6 月 15 日の一般謁見で、「高齢になると、もう自分の身体のコントロールが効かなくなります。何をして、何をしないかを選択することを学ばなければなりません。身体の活力はわたしたちを裏切り、見捨てます。たとえこころは望み続けても。そして、人はその願望を静めることを学ばなければなりません」と述べておられます。

今年のメッセージでは、しかし、「聖書が教えているように、長寿は祝福であり、老人は疎まれる存在ではなく、いのちを豊かに与えてくださる神のいつくしみの生きたしるしです」と指摘されます。その上で教皇様は、力が全てを支配することを良しとするかのような現代社会にあって、高齢者の謙遜さと蓄えた知恵が必要だとして、こう言われます。「わたしたちが面倒を見てもらうということ自体が、ともに生きることは可能であるばかりか必要なことだと表明する、一つの手段です。」

教皇様はこれを、優しさによる革命と呼ばれています。力による革命ではなく、謙遜さと知恵による革命です。神の語りかけには積極的に応え、お互いには耳を傾け合ひましょう。